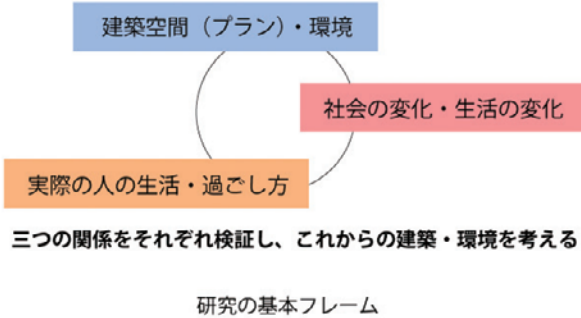


生活環境・空間デザイン研究室

黒木 宏一 准教授

E-mail/kurogi@niit.ac.jp TEL&FAX/0257-22-8205

概要



高齢者の施設計画・地域生活研究を専門としていますが、高齢者に限らず、これからの超高齢社会・少子社会に向けた、人の暮らしと建築空間・環境のあり方を探る研究を行っています。社会の現場に出て、自分の目と耳と感性を頼りに、そこで暮らす人に寄り添いながら、これからの建築を考えていきます。

具体的には、各種施設や住まいにおける人の暮らし方・過ごし方に関して、実際に現場に訪れてヒアリングや観察調査などを行い、建築空間の課題や可能性を見出し、超高齢社会・少子社会を見据えた、今後の施設計画・設計への指針を導き出します。

研究内容

研究の進め方



研究のコンセプト
社会の問題や変化に着目しながら、よりよい人の暮らしが実現できる建築・生活環境のあり方を探求するのが基本的スタンスです。
そのために、研究のスタートとして、社会の問題と建築的な課題に着目します。

ゼミ生一人一人、自分にあった研究テーマを見つけ出すゼミを行います。天気が良いときは、研究室を飛び出してゼミも行います。



H24年度の研究テーマ

- 超高齢化社会に対する多世代交流の可能性
- 地方における視覚障害者のバリアフリーの課題と提案
- 高齢者専用住宅の周辺環境と入居者のくらしに関する研究
- 家具配置による簡易な高齢者施設の環境改善に向けた研究

H25年度の研究テーマ

- シェア居住の容容に関する研究
- 団塊の世代のこれからの生活環境に関する研究
- 土木と建築のつながりから生まれる空間や環境の可能性
- シニアマンション居住者の生活実態からみる次世代のマンション計画の在り方に関する研究
- 終の千里（卒業設計）

ゼミ生それぞれ、研究テーマが決まったら、研究計画・調査方法を組み立てます。実際に現場を訪れ、ヒアリングや観察調査によって、建築空間の中での人の暮らしをリサーチします。

現場リサーチ
例：高齢者施設での観察調査の様子（右写真）5分おきに高齢者の滞在場所を図面にプロットし、移動、会話の内容を緻密に記録します。



3 調査を元に分析しやすいデータを作成します。

暮らしの視覚化・分析

例：観察調査で記録したデータをエクセルに入力。各空間での滞在時間や会話の回数、笑顔の回数などを視覚化。プランタイプによって、どういった暮らし・過ごし方の特徴があるのかを分析。

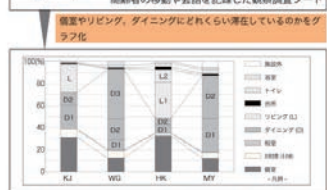


図1. 諸空間における入居者の滞在時間の割合（平均）
こういったプラン（図表1）にすると、高齢者が生き生きと暮らせる施設になる、ということが分かってくる。

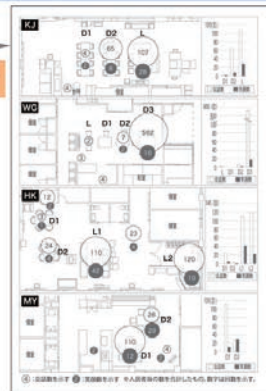


図2. 家具配置と会話数・笑顔数との関係
こうやって家具を置くとか話が違ってくるということが分かってくる。家具レイアウトなど、細かな設計に活かす。

4 空間的課題を整理し、課題解決の設計手法・暮らしの質を高める空間・環境のあり方を提言。今後の建築設計に活かします。

OUT PUT

研究成果は日本建築学会での発表、論文投稿や、実際の設計、書籍などで、社会に広く還元しています。

<書籍の例>
空き家・空きビルの積極活用
住宅を利用した高齢者施設の事例紹介の書籍。（日本建築学会編・学芸出版社）

<設計の例>
公営住宅の建て替えの際に、研究成果を活かして実際の設計に活かした事例。（知的障害者向けグループホーム住戸の設計）